

# 名詞句を受ける「でも」の用法特性と使用条件

## — 「逆条件」と「例示」の接点 —

蓮 沼 昭 子

### 要 旨

名詞句を受ける「でも」は、「逆条件」と「例示」という、一見、関連性を認めにくい用法をもつ。「例示」の「でも」は、適切な候補を暫定的に提示する用法を典型とするが、これとは異なるタイプの例示用法をもつ。すなわち、実現を阻む状況や懸念・危惧される状況において、それに対抗するための極端な手段の例示や、話し手の懸念・危惧の心情について断定を避け例示的・婉曲に述べるような用法である。後者の例示は、状況と話し手の期待の対立関係を表す点で、「例示」と「逆条件」の接点の存在を窺わせる用法と考えられ、一見、異質に見える「でも」の2用法を統一的に捉える可能性を示唆するものである。

キーワード：仮定性 選択性 逆条件 例示 譲歩

### 1. はじめに

前稿、すなわち蓮沼（2022）は、とりたてて表現の「だって」を取り上げ、「でも」「も」との対照を通し、その特性を明らかにしたものである。しかし、紙幅や時間等の制約で見送った課題がある。その最大のものは、名詞句に続く「でも」の用法特性と使用条件の分析である。名詞句に後接する「でも」には、「取り立て」と「接続」の連続性が認められ、その峻別が困難となる場合が多いが、本稿は、「でも」における「で」の使用が必須となる場合、およびそれが不可能な場合を分析することにより、「でも」の用法特性の全体像を明らかにすることを目的とする。

前稿では、日本語学におけるとりたてて表現の研究成果を援用して考察を進めたが、本稿では、言語類型論で提起されている「譲歩条件節」(concessive conditionals)の類型や、意味論、外国語との対照研究の成果なども参考にして、前稿よりも広い観点から分析に取り組むことにしたい。

## 2. 問題の所在

最初に、前稿での観察を振り返りながら、取り立て詞「でも」「だって」「も」の用法の対応関係を確認しておきたい。表1は、前稿の表4の「も」「だって」「でも」の位置を「でも」「も」「だって」の順に置き換え、前稿では省略した「も」の「概数」の用法を追加したものである。「概数」とは、「も」が数量詞に続く場合の用法で、「だいたい～くらい」といった近似値を表す用法である。確言のモードとは両立しにくいというモードの制約をもち、一般名詞に「でも」が続く「例示」用法と相補的な対応関係をもつとされる（山中1991b、定延1995）。本稿では「例示」の「でも」を重要な分析対象とするが、その際に「概数」の用法にも目配りが必要となるため、表に追加した。

表1 取り立て詞「でも」「も」「だって」の用法の対応関係

	色々	通念	当然	同類	意外	逆条件	逆接	例示	概数
でも	×	×	×	×	○	○	○	○	×
も	○	○	○	○	○	×	×	×	○
だって	×	×	○	△	△	○	×	×	×

○使用可能 △使用可能な場合があるが制限がある ×使用不可能

以下に、それぞれの用法の代表例を挙げ、3形式の容認度に対する筆者の内省結果を示す。「??」は非常に不自然、「\*」は容認不可能であることを示す。なお、必要に応じて取り立ての対象となる名詞句と述語の格関係を例文末の（ ）内に示す。

- (1) 色々：その日は天気 {\*でも／も／??だって} 良かったので、公園は家族連れでにぎわっていた。
- (2) 通念：息子 {\*でも／も／\*だって} 大学を卒業しました。
- (3) 当然：時給800円で交通費なしでは、学生 {\*でも／も／だって} ヤル気をなくすわ。
- (4) 同類：a. 田中さんは弁護士だが、奥さん {\*でも／も／?だって} 弁護士です。  
b. 学生時代にはいろいろなことを経験したい。外国語 {\*でも／も／?だって} 2か国語以上マスターしたいし、留学 {\*でも／も／だって} 経験したい。
- (5) 意外：a. こんな難しい問題は先生 {でも／も／だって} 解けない。

(ガ / ニ格)

b. ええっ、先生 {でも / も / \*だって} 解けない問題があるんですか？ (ガ / ニ格)

(6) 逆条件：たとえ雨 {でも / \*も / だって} 試合は決行する<sup>1)</sup>。  
(仮説的 ≡ 雨であっても)

(7) 逆接：明日は日曜日 {でも / \*も / ?? だって} 出勤しなければならない。  
(事実的 ≡ 日曜日だけれど)

(8) 例示：お茶 {でも / \*も / \*だって} 飲みませんか。 (お茶か何か)

(9) 概数：5人 {\*でも / も / \*だって} 入ればこの店は満杯になる。

ここで「でも」に注目して、表1が示す現象の特徴を整理すれば、以下の通りである。

1. 「でも」に固有の用法は、「逆接」と「例示」である。
2. 「でも」と「も」は「意外」を除いた用法で相補的分布を示す(表1の太枠で囲んだ部分を参照)。
3. 「だって」は「でも」「も」と部分的な用法の互換性をもち、「でも」「も」の中間的な位置を占める。
4. 「意外」では3形式に互換性が認められることがある。

本稿の究極の目的は、「でも」の使用が必須となる場合、およびそれが不可能な場合の条件を分析し、その用法特性を明らかにすることである。その手始めとして、最初に「でも」の例が見せる容認可能性の対照性を観察しておきたい。

以下の(10)(13)は、「でも」の使用が不自然となる例で、残りの(11)(12)(14)(15)は、「でも」の使用がすべて自然な例である。容認判断を示す記号は、上記(1)~(9)の場合と同様だが、文法的には可能だが、意味・用法が異なることを示す記号として「#」を追加する。

(10) 俺 {?? でも / だって / も} 人の子だ。お前の辛い気持ちはよく分かる。  
(同類)

(11) いくら俺 {でも / だって / \*も} モーツァルトぐらいは知ってるよ。  
(逆条件)

(12) こんな俺 {でも / \* だって / \*も} お役に立てればうれしいよ。(譲歩)

(13) 向こうから一度 {\*でも / だって / #も}<sup>2)</sup> 挨拶されたことはない。  
(最小量の非実現)

(14) 一目だけ {でも / \*だって / \*も} あなたに会いたい。

(最小量の実現希求 = 譲歩)

(15) お茶 {でも / \*だって / \*も} 飲みながら話そうか。(例示)

まず、(10)~(12)の例は、いずれも一人称代名詞の「俺」に3形式が続く場合だが、容認可能性は三者三様のパターンを示す極めて興味深い例である。

(10)は、「俺も他の人間と同類である」といった意味を表す「同類」の用法で、「でも」の使用は極めて不自然である。(11)は、「でも」「だって」が使用可能な「逆条件」の例で、「であっても」での言い換えが可能な場合である。例に即していえば「教養のない俺であっても、モーツアルトぐらいは知っている」というふうに、聞き手や世間の思い込みである「Pナラバ~Q」(お前だったら知らない)の後件を否定し、反論の意図を表すものである。(12)は、「でも」のみが使用可能な「譲歩」の例で、自己の能力を低く位置づけ、一步退いた姿勢で話し手の控え目な願望を表すものである。(11)(12)は、それぞれ「反論」「譲歩」という、正反対ともいえる発話意図を表すが、(12)は「譲歩」を表す文脈であり、そのため「でも」の使用は適切だが、「反論」を表す「だって」は容認不可能となる。

次に、(13)(14)は、「一度」「一目」のように、最小量を表す語を3形式が受ける場合である。(13)は、「一度という最小の回数でさえも、挨拶されたことがない」という否定的事態が続く場合で、「だって」は使用可能だが、「でも」「も」は同じ意味の表現としては使用不可能である<sup>3)</sup>。(14)は、「一目だけでもいいから会いたい」という話し手の控え目な願望を表すもので、この場合は、「でも」のみが使用可能となる。

最後の(15)は、適切な一例を挙げる「例示」の用法で、例に即していえば、歓談するときの典型的な行動として「お茶でも飲みながら」を一例として挙げるものである。この用法は、「でも」のみがもつもので、共起可能な表現は意志・勧誘・依頼など、未実現の働きかけの表現や、仮定表現・推量など、事実性が未確定な表現に限られ、事態を記述する平叙文は使用されない。

表1は、「でも」の用法を基準に「も」「だって」との互換性を観察した結果を示したものだが、「意外」では、3者に互換性が生じる現象が認められ、その使い分けには複雑な条件が絡んでいることが示唆される。そこで、本稿では、具体的な研究課題として、以下の3点を掲げ、絡み合った糸の解きほぐしの作業に取り組みたい。

## 研究課題

1. 「例示」は「でも」のみがもつ用法だが、この用法と「逆条件」の「でも」にはどのような用法上の関連性が認められるのか。
2. 従来「でも」が1形態素か、2形態素かの区別は、「も」の省略の可否を基準に行われてきたが<sup>4)</sup>、「も」が使用される場合に固定した場合、単独の「も」では表現できず、「で」の使用が必須となるのはどのような場合か。
3. 取り立て詞「でも」における、「で」と「も」は、それぞれどのような機能分担を行っているのか。

本稿では、「でも」における「で」の必須性や使用の可否を基準に用例の分布状況を観察した結果を分類し、それぞれの場合について観察と分析を進めることにしたい。なお、ここでは「でも」「も」の対照を観察の中心に据え、「だって」については必要な場合に限り言及する。3節での用例分析は、以下の分類に基づき順に進める。( )内は、扱う小節番号である。

- A) 「でも」のみが使用可能な場合 (3.1)
  - A-1) 「例示」の「でも」の範囲拡張 (3.1.1)
    - 1) 特別な状況の例示
    - 2) 極端な手段・方法の例示
  - A-2) 「たとえ」「いくら」を伴う場合 (3.1.2)
  - A-3) 「譲歩」<sup>5)</sup>の「でも」 (3.1.3)
- B) 「でも」「も」が使用可能だが、意味・用法が異なる場合 (3.2)
  - B-1) 不定語<sup>6)</sup>を受ける場合 (3.2.1)
  - B-2) (最)少量を受ける場合 (3.2.2)

本稿の構成は次の通りである。3節では先行研究を参照しながら本稿が採取した用例の分析を行う。4節では3節での観察に対する論点を整理し考察を行う。5節は全体のまとめである。

### 3. 用例の分析

この節では、「でも」のみが使用可能な場合 (3.1) と、「でも」「も」のどちらも使用可能だが用法が異なる場合 (3.2) に大別したあと、共起語や発話意図の違いなどに基づき用法の下位分類を行い、各タイプ別の特徴を具体例に即して観

察し分析を行う。

### 3.1. 「でも」のみが使用可能な場合

#### 3.1.1. 「例示」の「でも」の範囲拡張

「でも」のみが使用可能なのは、「例示」の用法である。先行研究では「提案のデモ」(寺村 1991)、「選択的例示」(沼田 1986)「暫定抽出」(森山 1998)「確定回避のデモ」(定延 1995)、「ほかしを表す「でも」」(日本語記述文法研究会(編) 2009。以後、略称の「日記研編」を用いる)などと呼ばれてきたものである。一語(1形態素)化が進んでおり「であっても」での言い換えが不可能であるという特徴や、使用可能な表現が希望、意志、勧誘、勧め、依頼、申し出といった未実現の事態を表す表現や、仮定条件、推量、疑い、質問など真偽が未確定の文に使用が限られるといったモダリティ制約をもつ<sup>7)</sup>。

「例示」の「でも」に対して、いっそう広い観点から分析の展開を試みた研究に、中西(2006b)がある。例示の「でも」を「裏読みの例示」「表読みの例示」「主題的な例示」<sup>8)</sup>の3種に分け分析しているが、この節では中西の「表読みの例示」に注目し、その再把握を試みる。すなわち「借金でもしているんですか」のような「特異な例」を取り立てる例示がこれに該当するが、ここに属する例として中西が挙げているのは4例に過ぎず、その敷衍と再把握が必要と考えるからである。また、従来の研究で「例示」の「でも」の例として挙げられるのは「お茶でも飲もうか」のような、もっとも思いつきやすく適切なものを挙げる場合(中西の「裏読みの例示」がこれに該当する)が典型的だが、中西の「特異な例」はこれとはやや異質である。この節では、「例示」の「でも」の観察範囲を拡張し、後者の「例示」に注目し、これを2タイプに分けて観察・分析を行う。すなわち、1)特別な状況の例示、2)極端な方法・手段の例示の2つである。

#### 1) 特別な状況の例示

「特別な状況」とは、肯定的であれ否定的であれ、通常と異なる特別な状況のことである。懸念される否定的事態に傾く傾向があるが、望ましい事態のこともある<sup>9)</sup>。「でも」はこうした状況に接した話し手が、その原因・理由を推測したり、他者の意見に対する疑念を述べ、反論の姿勢を示すような場合に使用される。

まず否定的事態に「でも」が使用され、疑念や質問を表す表現が使用された例を観察しておこう。

- (1) 『今日はどうしたの？葉月が学校休むなんて珍しいから一枝と驚いたんだ』

よ。昨日は元気そうだったのに、体調でも壊したの？」

(PB59\_00148 25320 華房憬『私一柏木春菜』)

- (2) 身体が余り丈夫ではないので、そんなに働いたのでは肺病にでもなりはしないかと恐れもしたけれど勝気な彼女の性質として、一度昇つたナンバーワンの地位から退転することをひどく淋しく思った。

(PB29\_00168 3140 徳田秋聲『徳田秋聲全集』)

- (3) 亜○亜大の野球部が出場辞退ではなく廃部を選ばないのはなぜでしょう？許されるとでも思ってるんでしょうか？

(OC06\_02186 390 「Yahoo! 知恵袋」)

- (4) あの男はリストラされたから自殺したのだろうか。仕事を失うと、それだけで生きていけなくなるとでも言うのだろうか。

(PB39\_00412 26500 嘉美原一也『巣立ちの日』)

(1)(2)は「学校を休む」「体が弱いのに働きすぎている」という否定的な状況に接し、その原因、あるいは結果に対する話し手の懸念を伴う推測を述べている例である。(3)(4)は、他者の言動に対し疑念を投げかけ、話し手の反論の姿勢を示している例である。

次の(5)(6)は条件文の前件に「でも」が使用された場合で、前件の発生が望ましくない事態をもたらすことに対する話し手の懸念を表すものである。

- (5) [沖縄での米海兵隊戦闘攻撃機からの爆弾落下事件について]

領海内*に*いわゆる現物の爆弾が落下させられている。それについてこれほどおくれて報告がされる。だから、これが事故にでもなったなら大変なことになるんじゃないかというふうな気もするわけです。

(OM55\_00002 340430 「国会会議録」)

- (6) 凶悪犯と撃ちあいにでもなれば、拳銃を抜かざるを得ない捜査もある。

(PB19\_00133 19280 末廣圭『魔性』)

上掲の6例は、普段とは様子が異なる状況に接した話し手の疑念、懸念を表しており、話し手の何らかの認知的抵抗感の存在が示唆される例である。ここでの「でも」の使用は、こうした認知的抵抗感が引きがねになり、話し手が抱く懸念や危惧感、疑念について、断定を避け暫定的な意見を示そうという話し手の心理に動機づけられているように思われる。

次の(7)は、判定詞「である」の間に「でも」が挿入され、「～かのように」という比況表現が続く例である。比況表現は別のものに「たとえる」ことを表し、例示の「でも」と高い親和性を示すものだが、以下の例は望ましくない事態を「で

も」で例示しており、上掲の例との連続性が示唆される例である。

- (7) 「そんなに次々に人を殺してまで、いったい犯人にはどんな目的があるというのですか？」と、まるで浅見がその犯人ででもあるかのように詰問した。  
(PB59\_00505 35580 内田康夫 『沃野の伝説』)

## 2) 極端な手段・方法の例示

ここで取り上げるのは、「這ってでも頂上を目指す」のような例で、付帯状況、手段・方法を表す動詞テ形に「でも」が後接する場合の用法である。このタイプの「でも」は従来の研究では分析対象として取り上げられることはほとんどなく、「逆条件」を表す「ても」の用法分類において「現実にはあり得ない比喩的な条件」を表す「特殊用法」に位置づけられてきたものである。すなわち「石にかじりついても反対を貫く」(前田 2009: 198)<sup>10)</sup>のような例がこれに該当するが、「石にかじりついても」と「石にかじりついても」の違いについては前田にも言及はない。しかし、こうした慣用表現以外の用例にも観察の範囲を広げると、「でも」での置換が不可能な「ても」の例が多数存在し、2形式の機能の相違が示唆される。

動詞のテ形は通常名詞句としては扱われないものだが、これを「名詞句、あるいは後置詞句」と捉える立場もあり(田川 2005: 8)、動詞テ形に後接する「でも」を名詞句の取り立てに準ずるものとして扱うことも、あながち的外れとはいえない。こうした事実を根拠に、以下ではここに属する代表例の観察を進めることにしたい。

「V テデモ」は「V テモ」との互換性が認められる場合もあるが、基本的には異なる意味を表す。以下では1) 置換が不可能な場合、2) 置換可能だが意味が変わる場合、3) 置換が可能で意味・用法の差も少ない場合の代表例を挙げ解説しておきたい。置換可能性は連続的で判断が困難な場合も少なくないが、原文はすべて「V テデモ」が使用された例である。元の「でも」を平仮名表記で示し、置換テストに使用する「モ」を片仮名表記で示す。

- (8) 「明日も出陣だ。後二刻(四時間)ほどしか休めぬエ、起きれるか」「起きます。這って でも／\*モ ついていきます」

(PB29\_00353 17190 秋山香乃 『歳三往きてまた』)

- (9) 「明日は早いぞ。たっぷり寝ておけ」「行かねえって言ったろう」「引きずって でも／\*モ 連れて行く」

(PB49\_00538 7500 竹花咲太郎 『首刈り朝右衛門』)



(8)(9)は、動詞テ形が「極端な手段・方法」と主節動作の「様態」の表示を兼務している例である。(8)を例に説明すれば、「這ってでも」は「這う」という極端な手段・方法を比喩的・例示的に表すと同時に「這う姿勢についてゆく」という、主節の動作の様態(付帯状況)を表している。この場合「這ってでも」を使用すると、2つの行為の継起関係や因果関係が想起され、逆条件の解釈が生じるが、(8)の表現意図はそれとはまったく異なる。「這うという極端な手段を講じてでもついていく」という比喩的・例示の意味は「這ってでも」では表せず、また(8)では逆条件の解釈自体が不自然なため、容認不可能となる。(9)に対してもほぼ同様の説明が可能である。

次は「V テモ」での置換が可能だが、置換すると用法が変化する場合である。

(10) Q: 神田うのはもし結婚したら落ち着きますか?

A: 「ワイドショータレント体質」なので静かには生活できないかも? 世の中に忘れられるのが淋しいんじゃないの? 白眼視されて、恥をかいて でも / # モ テレビや週刊誌に出たいんじゃないの?

(OC01\_03553 830 「Yahoo! 知恵袋」)

(11) 「(前略) わかったら、彼を助けてあげて、おねがい! もし、どうしてもきみがわたしをしんじてくれないければ、わたしはきみを殺して でも / # モ, 彼を助けるわ…。」

(LBon\_00030 22340 高橋克雄 『時を飛ぶ UFO』)

(10)(11)は、「V テデモ」と「V テモ」に異なる用法としての解釈が成立するケースである。「V テデモ」では極端な手段・方法の例示、「V テモ」では事態間の逆接関係を表し、使用された形式に応じて、どちらの解釈も成り立つ場合である。(10)を例にとりこの点を説明しておこう。

まず「V テデモ」の場合は、「白眼視され、恥をかく結果を招くような厚かましい手段を使ってでも、テレビや週刊誌に出たい」という意味を表すのに対し、「V テモ」は、「恥をかいても／かくことになるが、テレビや週刊誌に出たい」という事態間の逆接関係を表す。(11)では若干の相違はあるが、基本的には(10)とほぼ同様の説明が可能である。

(8)(9)で「V テモ」が容認できないのは、ここでのテ節は主節動作の「様態」を表すものであり、主節と継起関係・因果関係をもたないため、「逆条件・逆接」の解釈が成立しないからだと考えられる。一方、(10)(11)のテ節は、主節との因果関係を読み込みやすいケースで、その結果「V テデモ」ならば「極端な手段・方法の例示」、「V テモ」ならば「逆条件・逆接」という別々の解釈が可能になるの

だと考えられる。

最後に「V テデモ」「V テモ」のどちらも使用可能で、意味の違いが希薄な例を観察しておこう。

(12) Q: 石にかじりついて でも／も やり遂げたい事って何ですか？

A: 自分の信条, 信念です, 生きているうちにやり遂げたいですが, 天命が有ればの事です。 (OC14\_04465 80 「Yahoo! 知恵袋」)

(12)の「石にかじりついてでも」は、かなり慣用化が進んだ比喻表現で、コーパスでは「～てでも」(2例)「～ても」(5例)の出現が確認されたが、意味の違いもあまり感じられない。慣用化がその一因である可能性が考えられるが、それを認めるとしても、(10)(11)の例で指摘したような「てでも」と「ても」の意味の違いは依然として指摘可能である。

### 3.1.2. 「たとえ」「いくら」を伴う場合

「たとえ」「いくら」を伴う文において名詞や代名詞が取り立てられる場合は、「でも」「だって」が使用され、「も」の使用が不可能になるという現象がある。(13a)(14a)がそうした例である。一方、「たとえ」「いくら」を削除すると、「だって」「も」の使用が自然になり「でも」が若干不自然になることがある。(13b)(14b)がそうした例である。

(13) a. あんなことを言われれば, たとえ僕 でも／だって／\*も 黙ってはいないよ。

b. あんなことを言われれば, 僕 ?でも／だって／も 黙ってはいないよ。

(14) a. いくら俺 でも／だって／\*も モーツァルトぐらいは知ってるよ。

b. 俺 ?でも／だって／も モーツァルトぐらいは知ってるよ。

こうした副詞の有無で「でも」と「も」の容認度が交替する現象が起こるのはなぜなのだろうか。以下ではこの点の検討を行うことにしよう<sup>11)</sup>。

以上の現象が生じる理由に対し、本稿は「たとえ」「いくら」を伴う「僕」「俺」は属性が付与された事態レベルに属するものであり、述語と格関係に立つ項ではないという点に求めたい。すなわち(13)a(14a)の「僕」「俺」は、「僕が黙ってはいない」「俺が知っている」のガ格を取り立てているのではなく、「温厚な僕」「無教養な俺」のように、属性が付与された事態と捉えることにほかならない。

こうした属性の付与は、「たとえ」「いくら」の使用によってもたらされるものである。「たとえ」は逆接仮定表現が続くことを予告するものだし、「いくら」はそれが付加した「俺」が極端な属性をもつことを明示する働きをもつ<sup>12)</sup>。こう

した副詞の働きによって「普段は温厚な僕でも黙ってはいない」「無教養な俺でも知っている」という「逆条件」の関係が明示され、文脈的安定が成立することになる。一方、「も」は述語とガ格の関係に立つ「僕」「俺」を「同類」の要素として付け加えるもので、逆条件の関係を表す機能はもたない。(13b (14)b では自然な「も」が、(13a (14)a では使用不可能なのはそのためである。

ちなみに、(13b (14)b において「でも」がやや不自然に感じられるのは、「でも」は使用可能な述語に制限があり、「意外・極限」<sup>13)</sup>を表す「でも」は、1回的に生じた出来事を表す文や、意志、勧誘、行為要求の文には使用しにくいとされるからである(日記研編 2009)。そして、通常、述語には許可・容認を表す「いい／構わない」や、可能表現(できる／できない)、必要を表す「なければならない」などが使用され、こうしたタイプ以外の述語の場合は文脈設定がないと使用しにくい<sup>14)</sup>。(13b (14)b で「でも」の使用がやや不自然になるのは、「知っている」「黙っていない」が上記のタイプの述語でないこと、および「僕」「俺」だけでは人物像が想起しにくいからだと考えられる。「大人、子ども、先生」のように、その属性が語彙的に与えられている場合であれば「先生でも黙っていない」「子どもでも知っている」のように、属性から想起される期待が覆されるという解釈が成り立ちやすくなることから以上説明は妥当性をもつと思われる。

### 3.1.3. 「譲歩」の「でも」

相手に一歩譲り控え目な話し手の願望・要求を表す譲歩の用法では「でも」の使用が自然で、「だって」「も」は不適切になる(蓮沼 2022)。「一度」「少し」など、「(最)少量」を表す副詞的成分に「でも」が続き、希望、意志、勧め、命令など、実現が望まれる未実現の事態の表現が続く場合に成立する用法である。この場合「も」は基本的に「でも」との互換性をもたないが、例外もある。「一日でも長く／早く」と「一日も長く／早く」のように、どちらのタイプの用例も観察され、意味の違いも少ない場合がここに該当する<sup>15)</sup>。一方、「1円でも安く」「一つでも多く」のように、「も」との互換性が認められないケースも多いため、以下では「だって」「も」との互換性が認められない「でも」の例を挙げる。互換性のテストに使用する「ダッテ」「モ」を片仮名表記で添えておく。

- (15) 本物の沈んだタイタニック号に行きたいのですが、実際、一般人は見る行くことは可能なのでしょうか？お金はかなりすると思うのですが、一度 {でも／\*ダッテ／\*モ} 見てみたいんです…。教えてください。

(OC01\_10504 640 「Yahoo! 知恵袋」)

- (16) みんなでこの三か条を目指して一歩 {でも/\*ダッテ/\*モ} 近づき実行しよう。(PB58\_00002 79790 菅篤哉『一日一訓おじいさんのお話』)
- (17) [介護保険料が話題] 自治体の中には一円 {でも/??ダッテ/\*モ} いいから払え, 払うことによって共同連帯のなかに参加できる, というところもありますが, お年寄りに聞けばみんな取奪されたと思っています。(PB43\_00437 81720 伊藤周平『障害者介護のあり方を問う』)
- (18) ですので多少強引でもいいので, どんな人でも, 会った瞬間に「いいところ」を一つだけ {でも/\*ダッテ/\*モ} 見つけてください。(PB51\_00114 30680 ゆうきゆう『「ひと言」で相手の心をつかむ恋愛術』)
- (19) 辛いことの後には必ず幸せがやってくるって本当ですか? 体験談を少し {でも/??ダッテ/\*モ} いいのでお聞かせください。(OC09\_04936 310 「Yahoo! 知恵袋」)
- (20) あまりハードでなくてもいいので, 毎日十分は歩くとか決めて, 少し {でも/\*ダッテ/\*モ} 動いたほうがいいと思います。(OC09\_02970 3160 「Yahoo! 知恵袋」)

以上で「でも」のみが使用可能な場合の観察を終わり, 次節では「でも」「も」のどちらも使用可能だが, 意味・用法に相違がある例を観察する。

### 3.2. 「でも」と「も」のどちらも使用可能な場合

#### 3.2.1. 不定語を受ける場合

不定語の「誰」「何」「どこ」などに「でも」「だって」「も」が続く場合は、「でも」「だって」が共通性をもち、「も」はこの2つとは大きく異なる振る舞いを示す。「でも」と「も」に限っていえば、「不定語+デモ」は肯定述語と共起し、「全部肯定」を表す傾向が強いのに対し、「不定語+モ」は否定形述語と共起し、「全部否定」を表す用法に大きく傾く。しかし、「不定語+モ」が肯定述語と共起し全部肯定を表す場合もある。以下では「誰」に「でも」「も」が続く場合、全部肯定を表す場合に見られる2形式の相違について観察しておきたい<sup>16)</sup>。

「誰でも」「誰も」を取り上げた先行研究としては、中西 (2006a), 楊 (2007), 中西・平岩 (2019), Hiraiwa・Nakanishi (2021) などがある。中西 (2006a) は、肯定述語と結びつく「誰も」と「誰でも」の違いや「みんな」との置換可能性などについて詳細に観察している。楊 (2007) は、「誰でも+VP」「誰もが+VP」とそれぞれに対応する中国語表現の“誰+都+VP”“个个+(都)+VP”の対照を試みたものである。実例の観察に基づき、文のタイプやイメージスキーマにおけ

るプロフィール（際立ち）のあり方の違いなどを指摘し、説得的な説明を提示している。中西・平岩（2019）は日本語の「不定語」（indeterminates）が「か」「（で）も」等と結びついた場合の統語・意味構造全般の分析を試みたものである。Hiraiwa・Nakanishi（2021）は英語で書かれた論文だが、基本的な主張は前者と共通している<sup>17)</sup>。通言語的な視野に立ち、「誰でも」の構造を「誰でも」という「譲歩条件節」の動詞「ある」が削除されたものと捉えている点が注目される。

詳細は原典に譲るが、以下では上記の先行研究の説明を本稿の観点から捉え直し、肯定述語と結びつく「誰でも」と「誰も」の用法の特徴と相違を以下のように整理しておきたい（述語とガ格，ヲ格で結ばれている場合に限定した記述である）。

#### 「誰でも」「誰も」の本質的相違

1. 「誰でも Q」は、集合に属するメンバーから任意の要素を候補として選択し、それぞれについて述語との照合を行い、どの要素であっても Q と結びつくという、条件的・選択的な関係把握に基づく全称性を表す。過去に 1 回の成立した事態には使用されにくい。(cf. 中西 (2006a) 「仮定的な全部肯定」)
2. 「誰も Q」は、集合に属するすべてのメンバーについて述語との照合を行い、すべての要素が Q と結びつくという包括的な事態把握に基づく全称性を表す。仮定的・現実的事態のどちらも表すことができる。(cf. 中西 (2006a) 「一括の全部肯定」)。
3. 述語とガ格，ヲ格で結びつく場合、「誰でも」は「が」を伴わないのが普通で，ヲ格では「を」は基本的に使用されない。一方、「誰も」は「人は／日本人なら」のような主題・条件を伴う場合は、「が」がなくても使用可能だが，主題・条件を伴わない場合は、「誰もか」の使用が必須となる。「誰をも」はまれにしか使用されない<sup>18)</sup>。
4. 「仮定的な全部肯定」と「一括的な全部肯定」のどちらの解釈も可能な場合は、「誰でも」と「誰も」が互換性をもつことがあるが，2形式の基本的意味の違いは依然として残る。
5. 「誰でも」は「N<sub>1</sub>であっても N<sub>2</sub>であっても…誰でも Q」といった仮定的・選択的な関係を表すため、「みんな」と同じ意味では使いにくい。一方「誰も」は仮定的意味が薄く，集合の要素の全体をひとかたまりのも

のとして一括して捉える事態把握を表すため、「みんな」と互換性をもちやすい。

上記の特徴を端的に表す例を以下に挙げ、互換性に対する筆者の内省を示しておく（追加した選択肢は漢字カタカナ表記）。なお、以下では紙幅の節約のため、歌詞や先行研究の例および筆者の作例を挙げる。また、それぞれの例に対する解説は省略し、上記1～5の記述でこれに代える<sup>19)</sup>。

[ガ格]

- (21) どの誰かは知らないけれど、誰もか／\*誰も／?誰デモ みんな知っている。  
 (川内康範作詞「月光仮面」主題歌)
- (22) 人は誰も／\*誰もガ／?誰デモ ただ一人旅に出て、人は誰も／\*誰もガ／?誰デモ ふるさとを振り返る  
 (北山修作詞「風」)
- (23) 日本人なら一度はだれも／誰もガ／誰デモ／ミンナ 梅干しを口にしたことがあるはずだ。  
 (中西(2006a)p.33 例文(30))
- (24) 昨晚の懇親会には部署の誰もか／\*誰も／\*誰デモ／ミンナガ 出席した。  
 (作例。過去の一回的事実)

[ヲ格]

- (25) 部長はだれでも／\*誰も／\*誰ヲモ ほめるから、部長の意見はあてにならない。  
 (中西(2006a)p.35 例文(43))
- (26) 先生はクラスのだれをも／\*だれも／みんなを かわいがった。  
 (中西 2006a: 28 例文(27) 選択肢・容認判断はともに中西による)

### 3.2.2. (最)少量を受ける「でも」

この節の最後の項目である。ここで観察するのは、「一」や「少し」など、(最)少量を表す副詞的成分に「でも」が後接し、期待と現実の対比的関係を表す用法である。この用法と3.1.3の「譲歩」の「でも」の違いは、後者は後続表現が未実現の望ましい事態を表すものであるのに対し、前者は容易に成立が期待される事態が不成立の場合、あるいは望ましくない事態がすぐにも実現しそうなことを予測するような場合の用法である。つまり、話し手の期待・予測にそぐわない事態を後続事態が表している点が、「譲歩」との大きな違いである。この用法については前稿でも簡単に考察を行ったが、そこでの説明はやや明示性を欠いていたため、ここではその修正と補足を試みる<sup>20)</sup>。

最小量を受ける「だって」は否定表現との共起が顕著で、「一度という少ない

回数でさえない」ことを表すが、「一度でも～ない」に対してこの説明を当てはめることはできない。最小量に後接する「でも」に否定表現が続く例はそもそもあまり多くはなく、顕著な共起が観察されるのは、「Pタラ／ト／レバQ」のような仮定条件表現である。つまり、最小量を受ける「でも」と「だって」の機能は本質的な相違をもつと捉えるのが適切といえる。以下では、やや複雑な振る舞いを見せる「でも」の振る舞いに的を絞り観察しておこう。

ここに属する「でも」の用法は大別すると2タイプがある。すなわち、「最小量」をRで表すことにすると、1)「RデモQデナイ」のような逆条件を表す場合、および、2)「RデモPナラバQ」のように逆条件と順接条件が組み合わさった構文で「でも」が使用される場合である。

まず、1)の逆条件を表す例から観察しておこう。ここでの「でも」は「RナラバQ」という順接条件のQが否定され「RデアッテモQデナイ(～Q)」という関係を表すもので、「でも」は「であっても」とほぼ同じ意味を表す。(27)(28)がそうした例で、どちらも「1円であっても」での言い換えが可能と判断される。しかし「1円でさえ(も)」での言い換えに関しては2例の間に相違が認められ、(27)では意味が変わり、(28)では言い換え後の例は不自然に感じられる<sup>21)</sup>。

(27) [オークションでの落札商品の実費送料について]

【出品者側の場合】送料は落札者様からお預かりしている金額です。実費送料との差額は切手か振込にて返金します。【落札者側の場合】商品説明に記載のない実費送料以外の無断超過徴収は1円でも許せません。

(OC14\_02631 2660「Yahoo!知恵袋」)

(28) この出品は1円でも売れないと思うけど、出品者にしても1円なら売れない方が良いですよね？

(OC14\_00755 60「Yahoo!知恵袋」)

次に2)のタイプに属する例を観察しよう。ここで観察対象とするのは、「PナラバQ」の帰結Qが望ましくない否定的事態を表す場合である<sup>22)</sup>。望ましい未実現の事態が後続する場合は、3.1.3の「譲歩」の「でも」が該当し、一応は区別が可能である。

(29)～(31)は「Pレバ／タラ／トQ」の後件Qが望ましくない事態を表している例である。(32)は、こうした関係づけの表示に特化した構文の「Vヨウモノナラ」<sup>23)</sup>が用いられた例である。いずれの例も「たとえ最低限のレベルであってもPが実現すれば、それだけが原因で望ましくない事態Qがもたらされる」といった関係を表す。(30)は、ささいな行動だけを理由に聞き手を殺害するという話し手の凶悪な決意を述べ、聞き手を脅迫する表現である。

- (29) 医局の教授は、自分の名前を「さん」付けて呼ばれると怒る。「教授」と呼ばれるのが当たり前で、最低でも「先生」と呼ばなければならない。教授のことを一度でも「さん」などと呼ばば、その医師の将来はない。

(PM31\_00303 15650 実著者不明『週刊現代』2003年11月15日号)

- (30) 「いいか、土屋。狙うんならオレだけにしろ。オレの知り合いに一寸でも妙な真似したら必ずおまえを殺す。必ず」

(LBe9\_00011 88270 松原敏春『男について』)

- (31) どの企業にも言えることだが、世の中の変化が激しいときには、その変化を上回るスピードで改革を進めていかなければならない。改革の努力を一日でも怠ると、たちまち変化に遅れをとることになる。

(PB35\_00372 45350 瀬戸雄三『逆境はこわくない』)

- (32) 「さあ、この男を、自分で自分の過ちに気づく場所へ連れていくんだ。もし牢番のやつが、賄賂を期待して、寛大な処置をとり、お前さんを牢屋から一步でも外へ出そうものなら、わしはそいつに二千ドゥカードの罰金をかけてやるからな。」(PB19\_00211 67100 ミゲル・デ・セルバンテス(著) / 牛島信明(訳)『ドン・キホーテ』)

(29)~(32)は、「Qを実現させる可能性がもっとも低いRであっても、Pの実現のみによって望ましくない事態Qが惹き起こされる」という関係を表すもので、逆条件と順接条件が複合的に組み合わせられた構造をもつ。すなわち、期待値が最低の「RデアッテモQ」という逆条件と、「PナラバQ」という順接条件が組み合わせられた構造である。そして注意深く観察すると「一度でも」「一步でも」などには「たとえば一度という最低限のレベルであっても」にパラフレイズ可能な「極端」と「例示」の意味が同居していることが指摘可能である。つまり、逆接性の陰に例示機能の存在が感じとれるのである。

この小節では前稿の修正を行い、新たな記述を追加しその分析を試みた。ここで本節を終わり、次節では本節の観察で明らかになった事実に基づき「でも」の用法全体を見渡し、用法間の関連性や「逆条件」の類型におけるそれぞれの位置づけを示し、「でも」に対する統一的把握を試みることにしたい。

#### 4. 考察

この節では、3節で明らかになった事実に対し、以下に挙げる諸点について考察を試みる。

##### 1. 「テモ構文」の類型からみた「でも」の用法特性



2. 「で」と「も」の機能の抽出と合成
3. 「例示」と「逆条件」の「でも」の接点
4. 「逆接」と「譲歩」という用語の検討

#### 4.1. 「テモ構文」の類型からみた「でも」の用法特性

ここでは, Fujii (1994), 藤井 (2002) による日本語の「テモ構文」の分類を参考に, それと「でも」の各用法の対応関係を考察しておきたい。以下の①～③は, 藤井 (2002) の「テモ構文」の分類をかなり簡略化し, それと対応すると考えられる「でも」の用法を整理したものである<sup>24)</sup>。「でも」が名詞句 (モノ) を取り立てているのか, 節 (コト) を取り立てているかについては当面は区別せず, 「P デモ」で表し, それぞれの代表例を挙げておく。なお, 以下では「テモ」「デモ」を構成要素にもつ文を説明の便宜上「テモ文」「デモ文」と呼ぶ。

#### 「デモ文」の分類

##### ①逆条件

(1) この問題は小学生でも解ける。 [P デモ Q] (一般通念[P ナラ～Q])

(2) この問題は数学の先生でも解けない。 [P デモ～Q] (一般通念[P ナラ Q])

##### ②選択条件 [P<sub>1</sub> デモ P<sub>2</sub> デモ… (P<sub>n</sub>) デモ Q]

(3) 大人でも子供でも入場無料です。

##### ③全称条件 [Wh デモ Q]

(4) 誰でも入場無料です。

①逆条件は, 一般通念からの予想に反する事態を帰結が表す場合で, 予想が肯定的事態 (Q) ならその否定形 (～Q), 否定的事態 (～Q) ならその肯定形 (Q) が使用される。②並列条件は, 複数の事態が P<sub>1</sub> or P<sub>2</sub> のような選択的な関係で並列される場合で, いずれの場合も同じ結果になることを表す。③全称条件は, 「誰」「何」「どこ」といった不定語の後に「でも」が続く場合で, どんな場合でも同じ結果になることを表す。②③は「無条件」(unconditional)<sup>25)</sup> と呼ばれることがある。

ここで①の逆条件の基本構造に対する従来の説明を確認しておきたい。逆条件が表す関係には2種類があり, 後件事態の成立に対する期待値が極端に低いPであってもQが成立する場合, および期待値が極端に高いPであってもQが成立しない場合の2つがある。上の「デモ文」を例にとれば, (1)が前者, (2)が後者の例である。逆条件のP, Qの意味特性としては, 評価や期待の尺度においてP

が非平均的な属性をもつこと、およびQが話者や人々の期待に反する内容であるという特徴をもつが、これは従来から指摘されてきた事柄である。

さてここで、これまであまり注意が払われてこなかった別のタイプの逆条件について補足しておきたい。すなわち、実行・実現を妨害する極端な状況Pにおいて、未実現の肯定的事態Qの実現を希求する話し手の決意や願望を表す場合である。以下はその代表例である。

- (5) たとえ雨でも試合は決行します。(決意)
- (6) どんなに苦しくても最後までやり抜こう。(意志)
- (7) 這ってでも頂上までたどり着きたい。(願望)

(5)(6)は日本語教科書や文法参考書などでおなじみの例である。(7)は本稿の3.1.1の2)で取り上げた「極端な手段・方法の例示」の例である。(5)(6)は実行を妨害するような状況に対抗し、事態の実現を目指す話し手の強い決意を表す例である。(7)は極端な手段をとってでも目標の達成を希求する話し手の態度を表す。つまり、いずれも望ましい事態の実現を希求・志向する表現であるという点で、予想・期待との齟齬を表す(1)(2)とは正反対の関係を表すものである。そして(5)~(7)には、(1)(2)とは別種の逆接性の存在が指摘できる。すなわち「逆境・困難・妨害への対抗」といった関係がもつ逆接性である。従来の研究では「テモ・デモ」がもつ「反期待性」の側面が強調され、ここで見た「対抗的關係」が持つ逆接性に対してはほとんど注目されることがなかった。しかし、この特徴は次に見る「例示のデモ」の用法特性を考える上で、大きなヒントになるものである。「例示のデモ」は、「テモ構文」や欧米語の「譲歩条件」(=逆条件)には見当たらない用法で、これと「逆条件」の用法の關係は、日本語学においてもいまだ未解明な部分が多く残る。そこでこの節の最後に「例示のデモ」について、簡単に考察しておきたい。

前件事態の「尺度性」「選択性」「全称性」は外国語の「譲歩条件」と日本語の「テモ文」「デモ文」が共有するものだが、日本語が外国語と大きな違いを見せるのは、「でも」が「逆条件」と「例示」という一見無關係に見える用法をもつ点である。文法構造が近い韓国語は別として、英語、スペイン語、中国語などは、例示の「でも」に当たる言語形式をもたないことが指摘されている(寺村 1991, 野田 2015, 井上 2019)。

寺村(1991:134)の有名な例を挙げれば、ある女優を紹介する次の英語記事の日本語訳では「でも」の使用が必須になるとされる。

- (8) a. She can marry her young man tomorrow if she likes.

b. 彼女がそうしたければ、明日彼と結婚できる。

c. 彼女がそうしたければ、明日にでも彼と結婚できる。

英語では“tomorrow”で(8)cに該当する意味を表せるが、直訳の(8)bはこれとは異なり、結婚の日取りが「明日」に限定されていることを表す。英語の原文がもつ「明日以降の適当な時期」というニュアンスを伝えるためには、例示の「でも」の使用が必要になるのである。

「例示」の「でも」は、上記(1)～(4)の例で示した①逆条件、②並列条件、③全称条件の「でも」の用法とはかなり性質を異にするものである。しかし、こうした異質性をもつ「例示」と「逆条件」の表示に、同一の形式が使用される理由や2用法の関連性に対しこれまでに説得力のある説明はほとんどなされていない<sup>26)</sup>。

そこで次節では「でも」を一旦「で」と「も」の2つに分解し、それぞれの機能を抽象化したレベルで捉え直し、「例示」と「逆条件」の意味が合成されるメカニズムの分析を試みることにしたい。

#### 4.2. 「で」「も」の機能の抽出と合成

この節では「でも」の異なる機能を「で」と「も」の結合の程度や使用される文の事態タイプの相互作用という観点から分析を試みる。厳密な規定ではなく感覚的なイメージでの把握だが、本稿では「で」「も」の基本機能を以下のように捉えておきたい。

##### (I) 「で」の基本機能

対象となる集合から特定の候補の選択・抽出を行う

##### (II) 「も」の基本機能

対象となる要素に別の要素の追加、ないしは要素の提示を行う

a. 同類の要素の追加 (同類のモ)

b. 極端な要素の提示 (意外のモ)

c. 候補の暫定的提示 (概数・例示のモ)

(I)は、「観察対象の指定を表し支援・強化する」という定延(1995)の「デ」の機能に対する把握を参考に、「観察対象の指定」のみでなくそこから候補を「選択・抽出」という機能を追加したものである。(II)は、定延の「モ」の機能分類にほぼ対応し、(II) a b cは、定延の「基本的なモ」「意外のモ」「確定回避のモ」

にそれぞれ対応するものである。定延と本稿の違いは、「確定回避」を「候補の暫定的提示」とした点である。暫定的ではあるが対象となる候補を定めており、「確定」を「回避」しているわけではないと考えるからである。以下では具体例に即して、上記の「で」「も」の基本機能から「でも」の異なる用法が派生するメカニズムを解説しておきたい。

最初に確認しておきたいのは「でも」と「も」の機能の根本的な相違である。前者は「選択」の機能を常に伴うのに対し、単独の「も」はそうした機能をもたない。例えば「この店は土曜日でも日曜日でも満員だ」「誰でも知っている」における「でも」を例にとると、集合からの候補の選択を「で」が、同類の要素の追加（累加）を「も」が表していると分析可能である。つまり「でも」は「どちらの曜日／どの人を選択しても」という意味を表す。一方「土曜日も日曜日も満員だ」「誰もも知っている」では候補の選択という意味は希薄で、一括して全体を捉え「どちらも満員だ」「みんなが知っている」という意味を表す。「いつでも留守だ」と「いつも留守だ」にも同様の違いが指摘可能である。

以上は、②「選択条件」、および③「全称条件」を表す「でも」に対する分析結果の説明である。次は「意外」の「でも」の分析である。

「意外」の「でも」は、集合からの極端な要素の選択を「で」が表し、これに「意外のモ」が続く場合として分析可能である。「こんな簡単な問題は小学生でも解ける」を例にとれば、人の集合から「小学生」を選択する働きを「で」が表し、能力が低い要素として評価の尺度の低位置に「小学生」を位置づけ提示する働きを「意外のモ」が表しているケースである<sup>27)</sup>。

では、「例示」の「でも」の機能はどのように分析可能だろうか。この問題については、新たな小節を次に設け取り上げることにしたい。

#### 4.3. 「例示のデモ」と「逆条件のデモ」の接点

「例示」の「でも」は「であつても」への言い換えや「で」「も」の切り離しが不可能で、1形態素化が進んでいることが窺える。だが、「で」「も」の合成としての説明も可能だと考えられるので、以下ではそうした観点から分析を試みる。

「例示」の「でも」における「で」は集合からもっとも思いつきやすい要素、もっとも適切な要素を選択・抽出する機能を持ち、「も」は選択された要素を述語との結びつきにおけるふさわしい候補として暫定的に提示する働きをもつと捉えることが可能である。これは森山(1998)が「暫定抽出」と呼ぶ「例示」の「でも」に対する説明に対し「で」「も」それぞれの機能を当てはめそれを統合したもの

だが、「例示」の「でも」では、この2つの働きはすでに融合し一体化していると捉えるのが適切ではないと思われる。

「例示」と「選択条件」(N デモ N デモ～)「全称条件」(Wh デモ～)の「でも」の大きな違いは、「例示」で選択されるのは1候補だけであるのに対し、「選択条件」「全称条件」では、それが複数存在するという点である。また、「例示」は「非事実内容・非現実事態」(井島 2007)にしか使えないというモダリティ制約をもつものに対し、後者はそうした制約を受けない点でも異なる。例えば「お茶でもいかがですか」に対し「お茶かコーヒーでもいかがですか」は使いにくいが、「お茶でもコーヒーでもいいです」(複数選択)「何でもいいです」(全選択)は極めて自然であり、また述語の「いい」は話し手の現実的な判断を表現していると捉えることが可能である。

「逆条件」の「でも」と「例示」の「でも」には一見どこにも関連性がないように思われるが、そうとはいえないことについては、3.1.1の2)で「極端な手段・方法の例示」を表す「V テデモ」の分析を行った際に指摘した。すなわち「這ってでも頂上までたどり着きたい」という場合は、「たとえて言えば、這うという極端な手段をとってでも」といった例示の意味をもつ。この場合「這う」は現実的手段として取ることも可能だが、「女房娘を質に入れてでも借金は返します」などという場合は、現実にはあり得ない極端な手段を比喩的に述べるものである。この場合「V テデモ」の主節には「～したい／しよう／してくれ」等、未実現の事態の実現・実行を希求・志向する表現が続くが、これは典型的な「例示」の「でも」が受けるモダリティ制約と一致する。しかし、典型的な「例示」と「V テデモ」には大きな相違もある。すなわち、前者はもっとも思いつきやすい適切な一例を挙げるものであるのに対し、後者は常識に反するような極端な例を挙げるものだからである。つまり「V テデモ」は「逆条件」と「例示」を兼務する表現として定型化の確立に至った形式と捉えることが可能で、これは「逆条件」と「例示」の接点・連続性を示唆するものである。

#### 4.4. 「逆接」と「譲歩」という用語の検討

最後に「逆接条件」「譲歩条件」における「逆接」「譲歩」という用語の適切性に対し検討を行っておきたい。

本稿では「P デアッテモ Q」が表す関係の名称として「譲歩条件」は採用せず「逆接条件」を短くした「逆条件」を使用しているが、その理由は「P テモ Q」「P デモ Q」が日常言語で使用される意味での「譲歩」を表す場合は限定的であり、「逆

条件]のほうが現実の事態関係が表す意味との適合性が高いと考えるからである。ただし、「P テモ Q」「P デモ Q」が表す関係は多様で、「逆接」という名称が適切とはいえない場合もある。例えば次のような順接条件が並列された「並列条件」(前田 1993)は、逆接を表すとはいえないものである(例文は筆者の作例である)。

(9) このお酒は冷やすとおいしいが、ぬるくお燗をしてもおいしい。

(10) このお酒は冷やでも燗でもおいしい。

“Concessive conditionals”およびその日本語訳の「譲歩条件」という名称は、現実の用法を的確に反映しておらず、またこの語の日常的な意味との隔たりが大きい。英語の“concede”は、敗北を認めたり、相手の権利や正当性を容認するといった意味を表し、「一旦引き下がっておいて巻き返しを図る」といった談話のレトリックとしての用法を発達させているが、“concessive conditionals”に分類される文がこうした意味での譲歩を表している場合は限定的である。例えば、前件が極端な状況や手段を表し、後件が意志・願望・行為要求など、話し手にとって望ましい未実現の事態を表す場合は、譲歩とはむしろ正反対の意味が認められる。前掲の例を再掲する。

(11) たとえ雨でも試合は決行する。(決意) (=5)

(12) どんなに苦しくても最後までやり抜け。(命令) (=6)

(13) 這ってでも頂上までたどり着きたい。(願望) (=7)

(11)(12)は「実現を阻む原因・状況に対抗し、望ましい事態の実現を目指す」という関係を表す。(13)は「極端な手段・方法」を表す例で前者とは若干の相違もあるが、3例はいずれも「妨害・逆境・困難への対抗」という共通の意味をもつ。「対抗」と「譲歩」は正反対の態度であり、(11)~(13)が表す意味を「譲歩」と呼ぶことがこれらの例が表す意味と大きくかけ離れていることは誰の目にも明らかであろう<sup>28)</sup>。一方、「対抗」は状況と意図の「対立」関係を表しており、「逆接」であれば「譲歩」ほどの不適切さは生じない。本稿が「譲歩」を話し手の控え目な願望・要求を表す場合に限定し、これ以外の逆接仮定関係に対し「逆条件」を使用しているのはそのためである<sup>29)</sup>。

## 5. まとめ

最後に本稿で明らかになった「でも」の用法特性と使用条件を簡条書きにまとめ、本稿を締めくくりにしたい。

1. 「でも」は集合から要素を選択的に提示する (X or Y) 関係を表すのに

対し、「も」は要素を追加する (X and Y) 関係を表す。

2. 名詞句に後接する「P デモ Q」は、動詞や形容詞のテ形に後接する「P テモ Q」と並行性を持ち、「逆条件」の関係を表す。
3. 「例示」の「でも」は、「で」「も」が融合し1形態素化したもので、集合から適切な候補を暫定的に選択・提示する機能をもつ。共起する表現は非事実・非現実事態を表すものでなければならないというモダリティ制約をもつ。「逆条件」を表すものではないため「であっても」への言い換えは不可能である。
4. 「でも」は、上記3とはやや異質な例示用法をもつ。例外的な状況や懸念・危惧される状況において、それに対抗するための極端な手段・方法の例示や、話し手の懸念・危惧の心情を直接的な断定を避け例示的・婉曲に述べる場合の用法で、3と共通するモダリティ制約をもつ。「でも」が「逆条件」と「例示」を兼務している場合であり、2つの用法の接点・連続性の存在を示唆するものである。

「でも」の適切な使用には複雑な条件が絡み、未解決な問題も多く残るが、以上をもって現時点での中間報告としたい。

#### 注

- 1) 「雨でも」は、「(天気) 雨であっても」と言い換えられ、名詞述語「雨だ」の逆条件形に該当する。「だって」は「だ」を構成要素にもつため、逆条件を表せるが、それをもたない「も」はそれが不可能である。
- 2) 前稿では、筆者の内省に基づき「一度でも～ない」を使用可能と判断していたが、コーパスの例にはこのタイプの例がなく、採取できたのは「疑い」ないしは「修辭的疑問」を表す次のような例である。  
(i) 「あなたは教会が潰れてもええ言わはるけど、毎日の御飯の仕度をせんならんうちの事を、唯の一度でも考えたことがありますか?」

(LB09\_00027 75990)

そのため(13)の「でも」には「\*」を付け前稿の記述を訂正した。なお、「一度も～ない」は文法的には可能だが、「一度だって～ない」とは意味が異なる(このことを#で表示)。すなわち、前者は回数がゼロであることを表すのに対し、後者は「一度さえも～ない」という意味である。

- 3) 「一+助数詞」に「でも」が続くものが、否定述語と共起している例は少なく、その多くは「一+助数詞デモP スレバ/シタラ/スルトQ」のように、仮定条件に先行する位置で使用された例である。一方「だって」は、否定形述語と強い共起関係を

もつことが用例の分布からも指摘可能である。こうした問題を明らかにするために、本稿では「最小量+デモ」の否定文での使用の可否について独立した小節 3.2.2 を立て分析を行う。

- 4) 定延 (1995:247) では、「デモ」を 1 形態素と認定する従来の基準として、次の 3 点を挙げたうえで、a と b の有効性に対しては疑念を投げかけている。
- a. モを削除しても文が自然ならデ+モ。不自然なら取り立て詞デモ
  - b. デモの直前の名詞が格 (ガ・ヲ) を持てば取り立て詞デモ。持たなければデ+モ。
  - c. デモがデアッテモに換言可能ならデ+モ。換言不可能なら取り立て詞デモ。

定延は、「デモ」における「デ」の機能を「観察対象の指定を表し支援・強化する」心的プロセスを表すものと捉え、意外の「デモ」の「デ」に対しては、1) 判定詞「ダ」を構成要素にもつ「デアッテモ」に換言可能な場合 (事態が観察対象) と、2) 場所表示的な「デ」の場合 (モノが観察対象) の 2 種を区別している。そして「確定回避のデモ」(本稿の「例示」の「でも」) の「デ」に対しては、「専ら観察対象の指定を強化しサポート役に徹する」(p.254) ものとし、「デモ」が後接するのはモノ表現であり、事態を観察対象にはできないと述べている。つまり「確定回避のデモ」は、「デ」が判定詞本来の機能を発揮することが全くない場合であり、「デアッテモ」への換言可能性が全くない理由をこの点に求めている。

沼田 (2007) は諸説を検討したうえで、「選択的例示」(本稿の「例示」) の「でも」を 1 形態素とし、「意外」の「でも」については、copula「だ」の中止形と「意外」のとりたて詞「も<sub>2</sub>」に分析可能としている。そして、意外の「でも」「でさえ」の「で」は意味的、統語的機能が希薄であり、この 2 つは他のとりたて詞の場合よりも結合が緊密であり、1 形態素化が進んでいると説明している。

本稿の目的は「でも」の「で」が必須となる場合、およびその使用が排除される場合の条件を分析し、「で」が必須となる場合の「でも」の機能に対する統一的説明を行うことである。沼田 (2007) の「でも」に対する分析は、「も」の省略の可否や「であっても」への交代の可否の観察に重点が置かれており、「で」の必須性という観点は特に認められない。本稿では「デモ」に対する定延 (1995) の説明を敷衍し、「デ」の使用が必須となる場合、およびそれが排除される場合の例を観察することにより、「デ」の本質的機能へのさらなる接近を試みる。

- 5) 蓮沼 (2022) と同様、本稿では「譲歩」を談話のレトリック効果を目的に使用される言語表現を指す用語として用いる。すなわち、一旦後退の姿勢を見せることにより「独断を緩和し自らの主張の効果的伝達を目的に使用される方略的な言語表現」(蓮沼 2018) のことを指す。そして“concessive” “concessive conditional” の訳語として一般的に使用される「譲歩」「譲歩条件」を本稿では採用せず、それぞれに対して「逆接」「逆条件」を使用する。
- 6) 前稿では、Wh 系列の語の名称として「疑問語」を使用していたが、本稿では通言語語的研究で採用されるいっそう一般性を有する“indeterminates”の訳語である「不定語」を使用することにする (cf. Kuroda1965, 中西・平岩 2019 など)。



- 7) 「でも」に課されるモダリティ制約は、井島 (2007) が「非事実内容」(p.62)「非現実事態」(p.69 図表九)と呼ぶ事態の特徴にはほぼ重なる。井島によれば、デモは、当該事態が事実内容であるかないかによって、〈極限〉か〈例示〉に分かれるとし、非事実内容に用いられた場合が〈例示〉のデモであるとしている。
- 8) 中西の「主題的な例示」に関連する用法については、すでに丹羽 (1995, 2006) があり、「でも」「だって」が「譲歩・同類・かつ題目」を兼ねているような場合は、「にしても」「にしたって」が使用可能なことを指摘している。
- 9) 次は肯定的事態に「でも」が使用された例である。
- (i) 嬉しそうじゃないか、なにかいいことでもあったのか」(OB2X\_0026785590)
- 10) 前田はこのタイプの例を、逆条件の用法を利用した「究極の逆条件」とも呼んでいる。
- 11) (13)(14)の「でも」が、「意外・極端」(名詞句の取り立て)なのか、「逆条件」(接続関係)なのかを区別する方法としては、「それが」の挿入や「であっても」による言い換えテストなどが提案されているが、本稿は当面この問題には立ち入らず、これらを「逆条件」の「でも」としてまとめて扱い、その使用の可否を左右する条件について検討を進める。
- 12) 「たとえ」と「いくら」がこうした別々の機能を分担していることは、これらが連続して使用された次のような例の存在からも指摘可能である。
- (i) 人間にとって、たとえいくら時代を経ようとも“教育は変わらず”といたい。  
(LBt3\_0014945820)
- なお、「いくら」と類義的な語に「いかに」「どんなに」があるが、「いくら」「いかに」は「(代)名詞+でも」に前接できるのに対し、「どんなに」ではそれが不可能な点で前者とは異なる。
- (ii) いくら／いかに／\*どんなに 俺／身内でも、こんな無礼は許せない。
- (iii) いくら／いかに／どんなに 苦しくてもやり抜こう。
- 13) 日記研編 (2009) では、「でも」が名詞句を受け予想外の結果を表す場合を「意外」の「でも」、節を受ける場合を「逆接条件節」の「でも」とするが、本稿では「であっても」に言い換えられ「意外性」を表す「でも」を「逆条件」に分類する。
- 14) 例えば、「俺 も／だって 辛い／心配だ／人の子だ」とは対照的に「俺でも 辛い／心配だ／人の子だ」は文脈設定がない場合はいずれも不自然である。
- 15) 時間量とモノの分量など、数量としての性質が異なることがその理由である可能性があるが、その検討は今後の課題にしたい。
- 16) 共通語では「誰も」に肯定表現が続く場合は頭高型 HLL、否定表現が続く場合は平板型 LHH のアクセントで発音され、アクセントの型の区別がある。
- 17) 中西・平岩 (2019), Hiraiwa・Nakanishi (2021) の表を合体し、不定語の分類名の日本語と英語の対応関係を以下に示す。

	疑問 Wh	存在量 Existential	否定極性 NPI	全称量化 Universal	自由選択 Free Choice
日本語	誰…か	誰か	誰も	誰も	誰でも
英語	'wh X'	'some X'	'any X'	'every X'	'any X'

- 18) BCCWJの全データを以下の条件で文字列検索した結果のヒット数は、次の通りである。

- ①「(誰|だれ)でもが」96件 ②「(誰|だれ)でもを」1件  
 ③「(誰|だれ)もが」2514件 ④「(誰|だれ)をも」19件

ちなみに中西・平岩(2019:172脚注17)では、自由選択表現は統語的には項ではなく付加詞であるため、格標示を受けることはないとし、次のような例を挙げている。

- (i)a. そんなことは「誰でも」知っている。  
 b. \*そんなことは「誰でも」が知っている。

しかし、上記のコーパスの検索結果では、「誰でもが」が96件出現しており、中西らの指摘と事実と齟齬が観察される。ただし③「誰もか」は①「誰でもか」の約26倍出現しており、ガ格の表示に関しては両者に顕著な相違が認められ、2形式の統語・意味機能が根本的に異なることが示唆される。

- 19) 例文に挙げた各形式の使い分けには、格関係、文の成分、文タイプ、文体等、複雑な要因が絡んでおり、1～5の記述では不十分である。例えば「誰も(か)」はやや古風な書き言葉のニュアンスがあり、日常会話ではあまり使用されない。また「か」を伴わない「みんな」は、「すべて」と類義の副詞としての用法をもつ。副詞的用法は助詞を伴わない「誰も」「誰でも」にも認められ、格成分か副詞的成分かの区別は常につきまとう問題である。

- 20) 前稿では「一度|でも/だって/も」挨拶されたことはない」のような例を挙げ、「でも」「だって」は「一度という少ない回数でさえ～ない」という意味を表し互換性をもつとしたが、これは不正確な記述であった。実例を観察すると、2形式の用法には顕著な差異が認められたからである。一方、「一度も」は回数がゼロという全否定を表す点で、「でも」「だって」とは全く異なる機能をもつという前稿の説明は修正不要である。

- 21) ただし用例数が少ないため、「でさえ(も)」での言い換えの可否が用法の区別の基準として採用できるか否かについては、さらなる検討が必要である。

- 22) なお、この構文のQは必ずしも否定的事態のみを表すわけではなく、肯定的事態を表す例(i)や、PとQの当然関係を表す契約書の例(ii)なども存在する。ただし全体的傾向としては、否定的事態の例に傾く傾向が指摘可能である。

(i) どうも男性たちは、自分が妻よりも一歩でも先んじていると落ち着いていられるようである。(LBn3\_0000820100)

(ii) 担保は、西原のわが家…正式な手つづきは何やかやとむずかしく一日でも返済が遅れれば、すぐ、家をあげ渡すということが、ハッキリ書いてある。

(OB4X\_0008917370)

- 23) 松下(2021)は、この構文に対してBCCWJを用い文脈レベルの観察を含めた詳細な調査・分析を行っている。そして「P(よ)うものならQ」のPに出現しやすい語句の一類として「(一言/一歩/ひとつ/少し/ちょっと)でも」を挙げ、これを「最小量譲歩」と呼んでいる。

- 24) 藤井の「テモ構文」の分類は、言語類型論の「譲歩条件」(concessive conditionals)の分類を参考にしていると思われるが、後者よりもずっと詳細である。ちなみに Haspelmath and König (1998) の分類では、譲歩条件は次の3種に大別されている(分類名の日本語訳の a と c は中西・平岩 (2019), b は筆者による)。
- a. Scaler concessive conditionals (尺度譲歩条件)
  - b. Alternative concessive conditionals (選択譲歩条件)
  - c. Universal concessive conditionals (全称譲歩条件)
- 「尺度性」「選択性」「全称性」は、日本語の「テモ文」「デモ文」のどちらももつ特徴だが、英語では上記の3タイプには、a. *even if*, b. *whether...or...*, c. *no matter wh.../wh-ever...* など、それぞれに異なる言語形式が使用されるが、日本語ではすべてが「テモ」「デモ」という共通の形式で表現可能な点は興味深い。なお、テモ構文の用法分類、およびその英語、中国語構文との対応関係については、蓮沼(2017)を参照されたい。
- 25) “Unconditional” の日本語訳には「非条件」を使用する研究が多いが、この語は条件の如何にかかわらず同じ結果が成立することを表す条件文の1タイプを指すものなので、「無条件」(中西・平岩 2019 : 161 注6)のほうが適切と考え、こちらを採用する。
- 26) その例外は星野(2020 : 387)の次の簡潔な指摘である。すなわち、A「いつでも仕事を休みたい」(全該当の可能性の擬似的例示),「平日でも祝日でも仕事を休みたい」(全該当の可能性の例示), B「水曜日にでも仕事を休みたい」(暫定抽出)のような例を挙げ、Aが個別qを取り上げて全体Qを表現するのに対し、Bは全体Qから交換可能な個別qを取り上げる点で表現のベクトルが反対に向くが、「反対」が成立する程度に構造を共有することをA・Bの共通点に挙げている。「逆条件」と「例示」の「でも」の統合的把握を目指す本稿にとって非常に示唆的である。なお星野の「暫定抽出」は森山(1998)の用語で、本稿の「例示」に該当する。
- 27) 本稿では、「小学生でも解ける」のような例を「逆条件」に分類しているが、これは丹羽(1995)の分析を参考にしたものである。丹羽は「たとえ(それが) 毒薬でも飲み干してしまうつもりだった」のような例を挙げ、「それが」の有無で「接続関係」と「取り立て」を一旦は区別しているが、取り立ての「でも」も本質的には「譲歩」を表すと捉えている(p.27)。なお本稿では「譲歩」を「でも」の別の用法に充て、丹羽の「譲歩」に該当する「でも」に対し「逆条件」を使用している。用語には相違があるが、「取り立て」と「接続関係」の「でも」の用法をまとめて捉えている点では共通する。
- 28) Fujii (1994 : 194) では、“concessive conditional” という用語を容認しない立場を表明したうえで、単なるラベルとしてこの語を使用する旨が述べられている。König and Siemund (2000 : 343) は、この用語が誤称(misnomer)と見なされ、さまざまな代案が提案されてきた事実を紹介している。Declerk and Reed (2001:469) は、*even if* の文全般に対する名称に“concessive conditionals”は採用せず、純粋に譲歩を表す場合に限定しこれを *purely concessive even if-clause* と呼んでいる。

- 29) König and Siemund (2000 : 342) は、因果文 (causal), 条件文 (conditional), 譲歩条件文 (concessive conditional), 譲歩文 (concessive) の意味関係を以下のように整理している。順接関係に対する「調和」(Harmony), 逆接関係に対する「不調和」(Dissonance) という意味ラベルは、「順接」「逆接」よりもいっそう一般性を有する的確な名称であり示唆的である。

	Hypothetical	Factual
Harmony	conditional	causal
Dissonance	concessive conditional	concessive

### 参考文献

- 井島正博 (2007) 「サエ・マデ・デモ・ダッテの機能と構造」『日本語学論集』 3 : 45-82  
 東京大学大学院人文社会系研究科国語研究室
- 井上 優 (2019) 「中国語のとりたて表現」野田尚史 (編) 111-128
- 定延利之 (1995) 「心的プロセスからみたモ、デモ」益岡隆志・野田尚史・沼田善子 (編)  
 『日本語の主題ととりたて』 227-260 くろしお出版
- 澤田美恵子 (2007) 『現代日本語における「とりたて助詞」の研究』くろしお出版
- 高木千恵 (2012) 「大阪方言のとりたて形式カテについて」『阪大社会言語学研究ノート』  
 10 : 66-77
- 田川拓海 (2005) 「テ形と共起するとりたて詞について」『言語学論叢』 24 : 1-13 筑波大  
 学一般応用言語学研究室
- 寺村秀夫 (1991) 『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』くろしお出版
- 中西公子・平岩健 (2019) 「日本語の裸不定語—譲歩条件節における認可メカニズムを通  
 して—」澤田治・岸本秀樹・今仁生美 (編) 『極性表現の構造・意味・機能』 154-  
 179 開拓社
- 中西久実子 (2006a) 「「だれも」は肯定述語と結びつかないのか—「だれも等しく教育を  
 受ける権利を有している」—」益岡隆志・野田尚史・森山卓郎 (編) 『日本語文法の  
 新地平 2 文論編』 27-39 くろしお出版
- 中西久実子 (2006b) 「とりたて助詞「でも」による例示とは」土岐哲先生還暦記念論文  
 集編集委員会 (編) 『日本語の教育から研究へ』 207-216 くろしお出版
- 日本語記述文法研究会 (編) (2009) 『現代日本語文法 5 第 9 部 とりたて』くろしお出  
 版
- 丹羽哲也 (1995) 「「さえ」「でも」「だって」について」『人文研究』 47(7) : 25-51 大阪市  
 立大学
- 丹羽哲也 (2006) 『日本語の題目文』和泉書院
- 沼田善子 (1986) 「とりたて詞」奥津敬一郎・沼田善子・杉本武『いわゆる日本語助詞の  
 研究』 105-225 凡人社
- 沼田善子 (2007) 「「でも」か「で」と「も」か—「だ+とりたて詞」の諸相—」『文藝・  
 言語研究 言語編』 52 : 37-48 筑波大学

- 野田尚史 (2015) 「日本語とスペイン語のとりたて表現の意味体系」『日本語文法』15 (2) : 82-98
- 野田尚史 (2019) 「とりたて表現の対照研究の方法」野田尚史 (編) 3-20
- 野田尚史 (編) (2019) 『日本語と世界の言語のとりたて表現』くろしお出版
- 蓮沼昭子 (2003) 「取り立て詞「だって」について—「も」「でも」との比較を通して—」『姫路獨協大学外国語学部紀要』16 : 251-268
- 蓮沼昭子 (2017) 「順接と逆接の境界—日本語学習者は逆接条件の「テモ」になぜ順接条件形式を使用するのか—」江田すみれ・堀恵子 (編) 『習ったはずなのに使えない文法』119-146 くろしお出版
- 蓮沼昭子 (2018) 「譲歩のレトリックの言語的指標とその機能—コーパスの観察を通して—」『日本語教育連絡会議 (2017) 論文集』Vol.30 : 8-26
- 蓮沼昭子 (2020) 「くよくよしたってしょうがないよ」『日本語教育連絡会議 (2019) 論文集』Vol.32 : 44-61
- 蓮沼昭子 (2021) 「「テモイイ」と「タツテイイ」」『日本語教育連絡会議 (2020) 論文集』Vol.33 : 24-42
- 蓮沼昭子 (2022) 「取り立て詞「だって」について—とりたて表現の体系における「も」「でも」との対照—」『日本語日本文学』32 : 18-35 創価大学日本語日本文学会
- 藤井聖子 (2002) 「所謂「逆条件」のカテゴリー化をめぐる—日本語と英語の分析から—」生越直樹 (編) 『対照言語学』(シリーズ言語科学4) 249-280 東京大学出版会
- 星野佳之 (2020) 「現代語の副助詞デモの各用法について—いわゆる「譲歩」「極端」と「例示」の関係について—」日本近代語研究会 (編) 『論究日本近代語』第1集 375-389 勉誠出版
- 前田直子 (1993) 「逆接条件文「～テモ」をめぐる」益岡隆志 (編) 『日本語の条件表現』149-167 くろしお出版
- 前田直子 (2009) 『日本語の複文 条件文と原因・理由文の記述的研究』くろしお出版
- 松下光宏 (2021) 「接続辞「(よ)うものなら」の文脈における用法と使用文脈の特徴」『神戸医療福祉大学紀要』22 (1) : 19-35
- 森山卓郎 (1998) 「例示の副助詞「でも」と文末制約」『日本語科学』3 : 86-100
- 山中 (澤田) 美恵子 (1991a) 「「も」「でも」「さえ」の含意について」日本語と中国語対照研究会 (編) 『日本語と中国語の対照研究』14 : 25-39
- 山中 (澤田) 美恵子 (1991b) 「「も」の含意について 再考—数量詞+「も」を中心に」Kansai Linguistic Society 11 : 21-30
- 楊 凱榮 (2007) 「全称詞構文の日中対照研究—「誰でも+VP」, 「誰もが+VP」と“誰+都+VP” “个个+(都)+VP”を中心に—」彭飛 (編) 『日中対照言語学研究論文集—中国語からみた日本語の特徴, 日本語からみた中国語の特徴—』371-390 和泉書院
- 吉田永広 (2016) 「副詞「たとひ」の構文」『國學院大學大學院紀要 文学研究科』47 : 23-48

- Declerck, R. and S. Reed (2001) *Conditionals: A Comprehensive Empirical Analysis*. Berlin and New York: Mouton de Gruyter.
- Fujii, S. Y. (1989) Concessive Conditionals in Japanese: A Pragmatic Analysis of S1-TEMO S2 Construction. *Proceedings of the Fifteenth Annual Meeting of the Berkely Linguistic Society*, 291-302.
- Fujii, S. Y. (1994) A Family of Constructions: Japanese TEMO and Other Concessive Conditionals. *Proceedings of the Twentieth Annual Meeting of the Berkely Linguistic Society: General Session Dedicated to the Contributions of Charles J. Fillmore*, 194-207.
- Haspelmath, M. and E. König (1998) Concessive conditionals in the languages of Europe. In: van der Auwera J. and D. P. Ó Baoill (eds.) *Adverbial constructions in the languages of Europe*, 563-640. Berlin and New York: Mouton de Gruyter.
- Hiraiwa, K. and K. Nakanishi (2020) Bare indeterminates in unconditionals. *Proceedings of the Linguistic Society of America* 5(1): 395-409.
- König, E. and P. Siemund (2000) Causal and concessive clauses: Formal and semantic relations. In: Couper-Kuhlen, E. and B. Kortmann (eds.) *Cause-Condition-Concession-Contrast: Cognitive and Discourse Perspectives*, 341-360. Berlin and New York: Mouton de Gruyter.
- Kuroda, S.-Y. (1965) *Generative Grammatical Studies in the Japanese Language*, Doctoral dissertation, MIT.

#### 調査資料

国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)

(はすぬま・あきこ, 姫路獨協大学名誉教授・創価大学名誉教授)